

# 山梨県（福祉保健部）における 牛海綿状脳症（BSE） 対策について

平成25年度  
第1回食の安全・安心を語る会

山梨県 福祉保健部 衛生薬務課  
食品衛生・動物愛護担当

# 本日の説明内容

---

- BSE対策の概要
- と畜場でのBSE対策
- まとめ



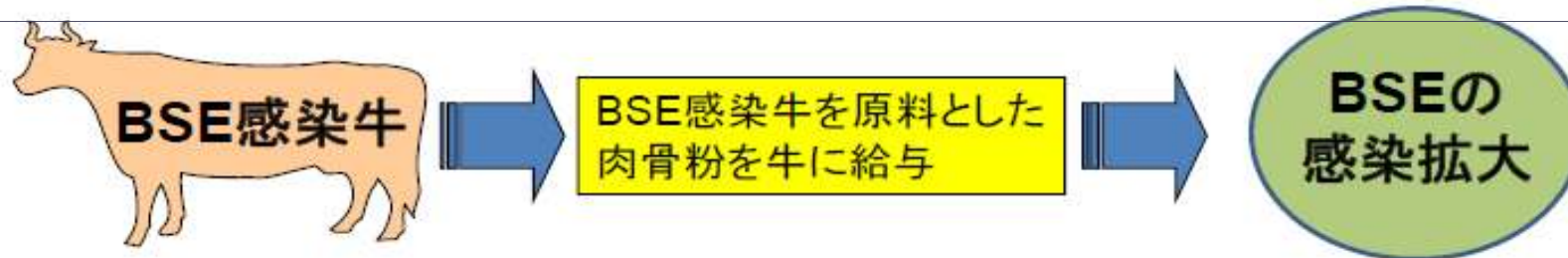
# 牛海綿状脳症（BSE）とは

○BSEは牛の病気の一つです。

「BSEプリオン」と呼ばれる病原体が、主に脳に蓄積し、脳の組織がスポンジ状になり、異常行動、運動失調などを示し、死亡すると考えられています。

## 【感染経路】

○この病気が牛の間で広まったのは、BSE感染牛を原料とした肉骨粉を飼料として使ったことが原因と考えられています。



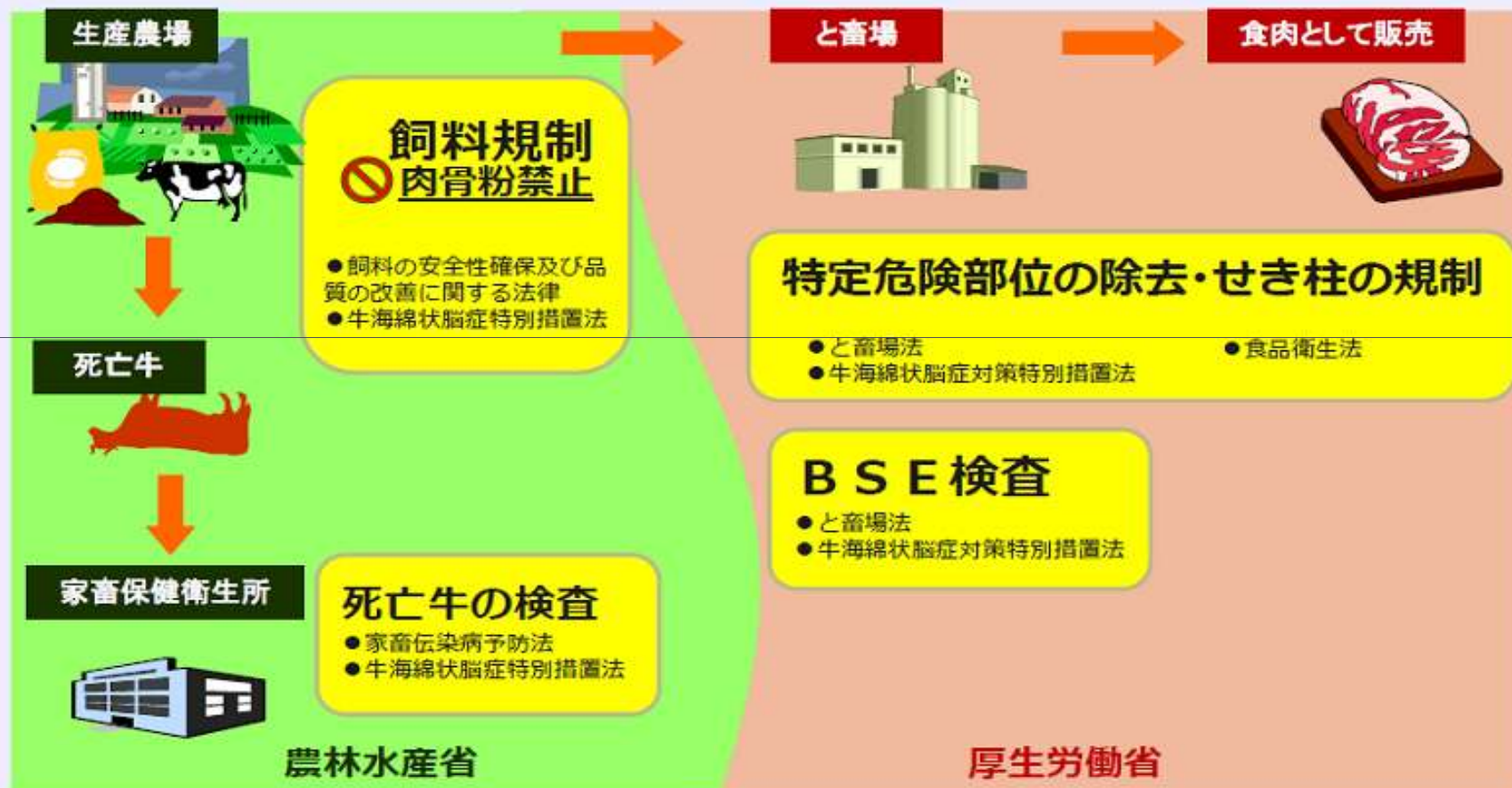
○BSEに感染した牛では、BSEプリオンが、牛の脳・せき髄・回腸の一部などに蓄積します。

## 【人への影響】

○1995年に、英国で変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)患者が初めて確認されました。vCJDはBSEとの関連性が示唆されています。

# 国産牛のBSE対策

● 飼料規制などの生産段階からと畜、販売の各段階における規制により、食肉の安全性を確保



<トレーサビリティ（農林水産省所管トレーサビリティ法）（注）>

（注）個体識別番号により、その牛が、いつどこで生まれ、飼育され、と畜されたかなどが確認できる。



# BSE対策の経緯

	国内			輸入			
	検査対象	SRM除去	その他の動き	米国・カナダ	ヨーロッパ		
H 8. 3 H12. 12					英国産:禁止 EU産:禁止		
H13. 9	国内で1頭目のBSE感染牛確認						
H13. 10	全頭検査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・除去・焼却義務づけ</li> <li>-頭部(舌・頬肉以外)</li> <li>せき髄</li> <li>-扁桃</li> <li>-回腸遠位部</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肉骨粉飼料完全禁止</li> <li>・牛海綿状脳症対策特別措置法の公布</li> </ul>				
H14. 6							
H15. 5 H15. 12						カナダ産:禁止 米国产:禁止	
H16. 2				・せき柱も使用禁止			
H17. 8 H17. 12 H21. 4 H21. 5	21か月齢以上		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピッシング禁止</li> <li>・OIE総会で「管理されたリスクの国」と認定</li> </ul>	20か月齢以下 輸入再開 ※H18.1~7 混載事例発生のため米国产の輸入手続停止			
H25. 2		・30か月齢超のせき柱使用禁止				30か月齢以下	フランス(30か月齢以下)、オランダ(12か月齢以下)輸入再開
H25. 4	30か月齢超	<ul style="list-style-type: none"> <li>除去・焼却義務づけ</li> <li>・30か月齢超の頭部(舌・頬肉以外)、せき髄</li> <li>・全月齢の扁桃、回腸遠位部</li> </ul>					

# BSE検査頭数（と畜場）とBSE感染確認頭数

BSE確認時の月齢

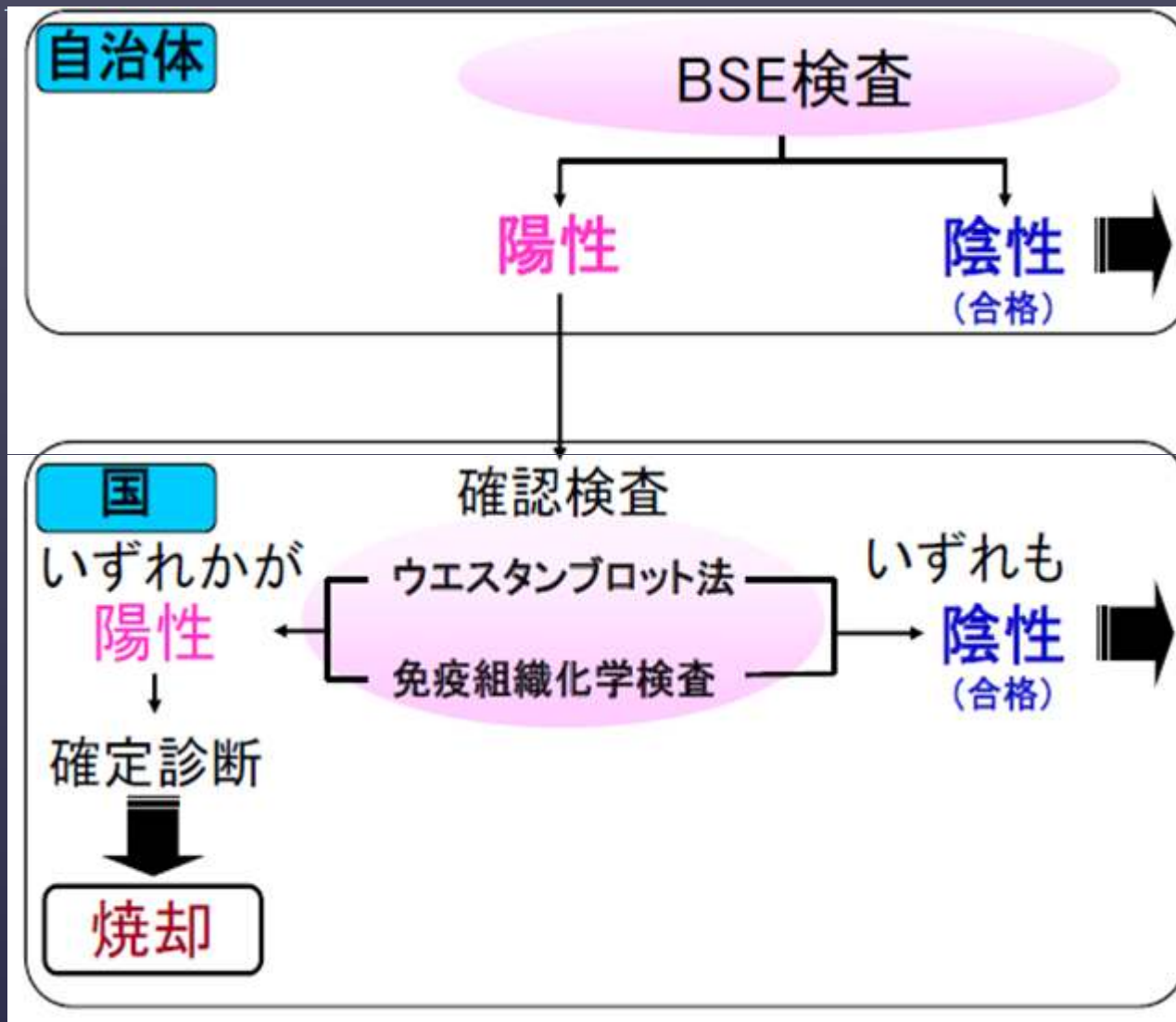
	BSE検査頭数 (と畜場)	BSE確認頭数 <sup>(注)</sup> (平成25年(2013年)3月31日現在)				
		<21	21-40	41-60	61-80	>80
平成13年度(2001)	523,591	3(2)				3(2)
平成14年度(2002)	1,253,811	4(4)				2(2)
平成15年度(2003)	1,252,630	4(3)		2(2)		2(1)
平成16年度(2004)	1,265,620	5(3)			1	1(1)
平成17年度(2005)	1,232,252	8(5)			2(1)	4(2)
平成18年度(2006)	1,218,285	8(3)				7(2)
平成19年度(2007)	1,228,256	3(1)				3(1)
平成20年度(2008)	1,241,752	1				1
平成21年度(2009)	1,232,496	0				
平成22年度(2010)	1,216,519	0				
平成23年度(2011)	1,187,040	0				
平成24年度(2012)	1,194,588	0				
合計	14,046,840	36(21)		2(2)	3(1)	17(9)

(注) ( ) はと畜場で確認された頭数。平成13年(2001年)9月に千葉県で確認された1例目、死亡牛検査で確認された14例を含め、国内ではこれまでに36頭がBSE感染牛として確認

(注) 平成21年度(2009年度)以降は、BSE感染牛は確認されていない。

# と畜場（食肉衛生検査所）でのBSE対策

## 1 BSE検査



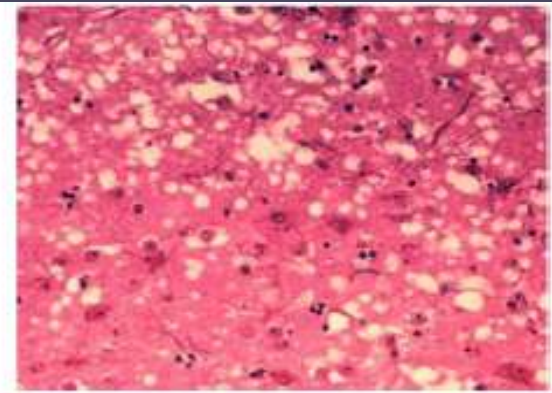
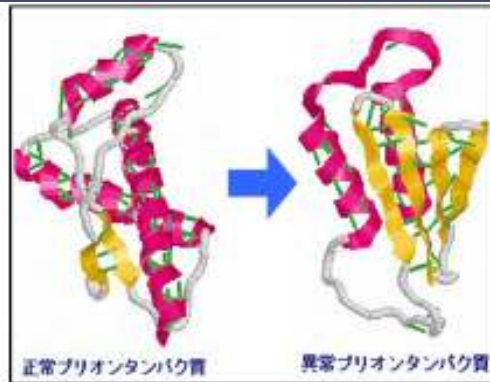
食肉  
として  
流通

検査合格  
まで持ち  
出し禁止

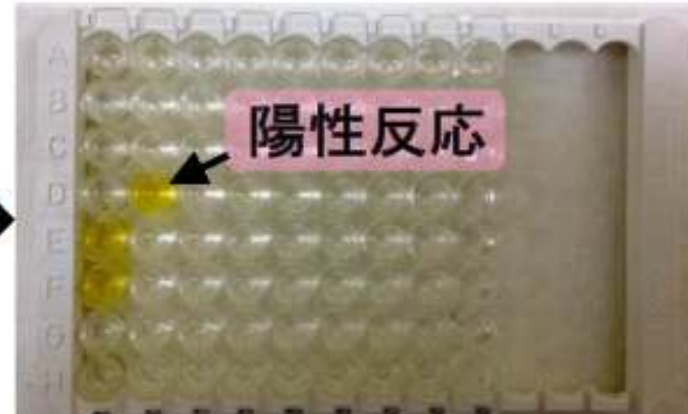
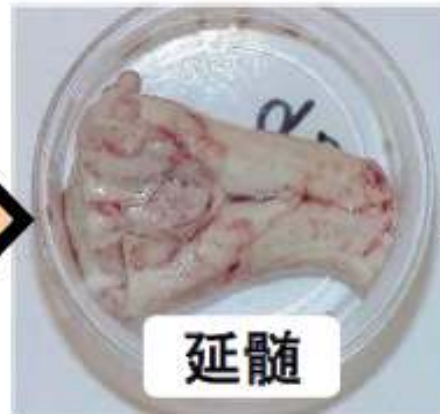


# と畜場（食肉衛生検査所）でのBSE対策

## 1 BSE検査



BSE発症牛は異常プリオンタンパク質により脳がスポンジ状に変化



牛の頭部からの延髄採取

異常プリオンタンパクの検出





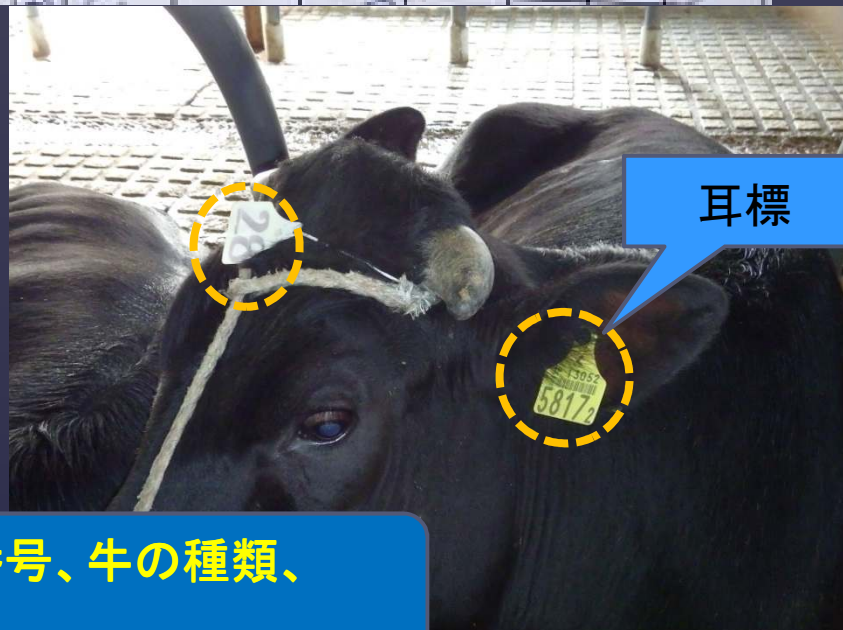
# BSE検査に係る分別管理

牛の個体識別のための情報の管理及び伝達に関する特別措置法(平成15年法律第72号。「牛トレサ法」という。)の牛個体識別台帳に基づき月齢を確認。

牛生体検査記録簿

検査日 平成26年6月14日(金) 時間 1時 分 1時 分 検査員

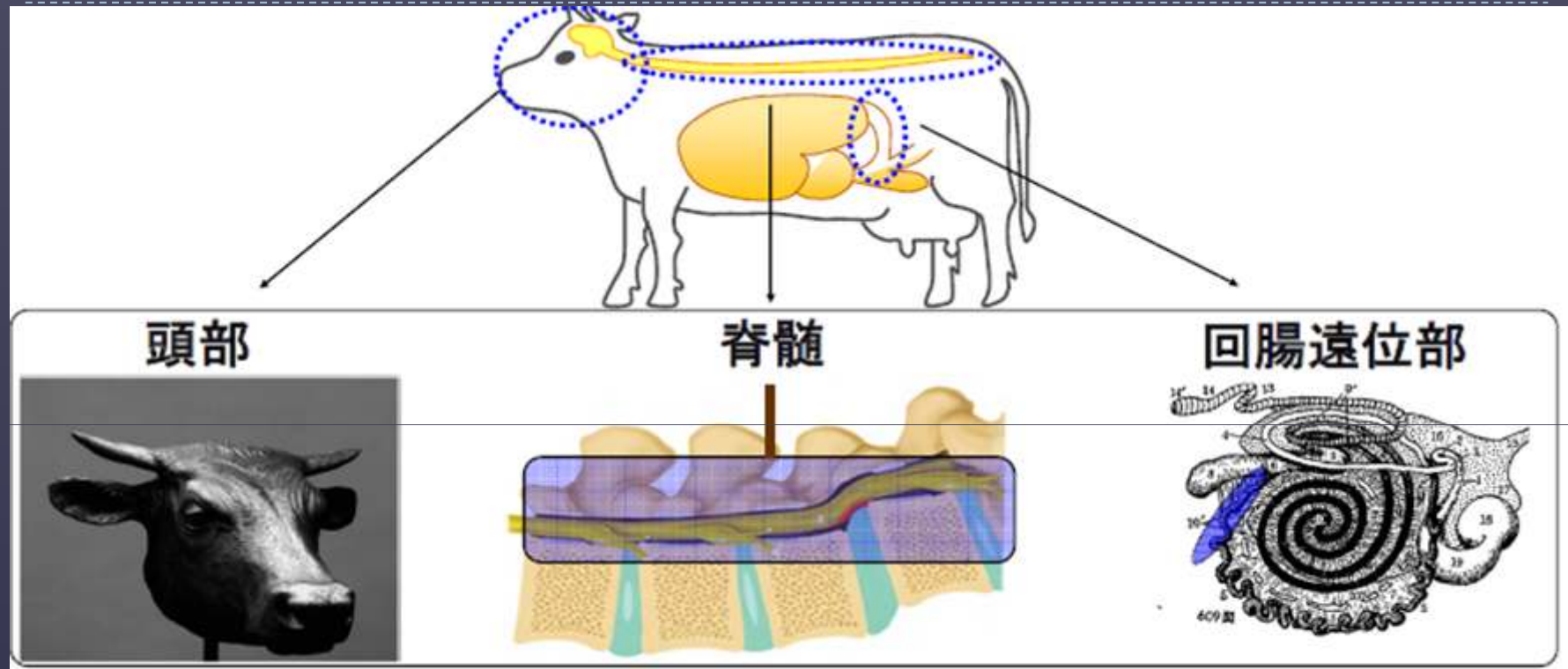
受付No.	耳標番号	月齢又は 生年月日	毛色	畜種	性別	識別	体表の汚れ				
							生体検査時	検査前	検査後	検査前	検査後
25	12368 9815-6		黒	和牛	♀	012 3-4	A B C	A B C			
26	13073 8870-8		黒	和牛	♀	012 3-4	A B C	A B C			



と畜検査員が全ての牛の個体番号、耳標番号、牛の種類、毛色、性別、牛の状態を確認

# と畜場（食肉衛生検査所）でのBSE対策

## 2 特定危険部位（SRM）の除去



確実に排除して専用容器に廃棄

# と畜場（食肉衛生検査所）でのBSE対策 と殺後の分別管理



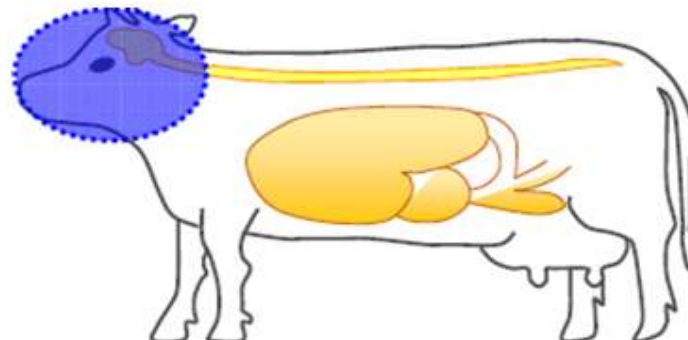
と殺、剥皮後の牛をタグにより  
1頭ごとに個体番号で識別



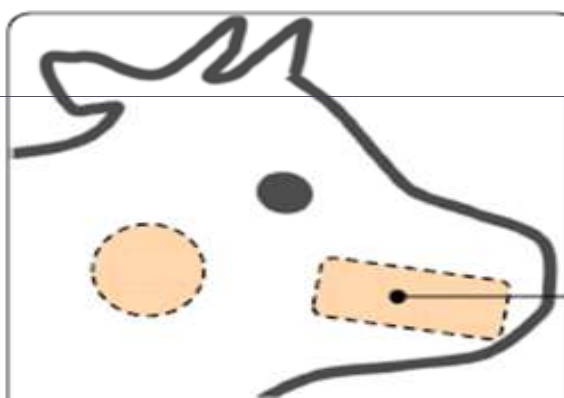
# と畜場（食肉衛生検査所）でのBSE対策

## 2 特定危険部位（SRM）の除去

頭部



剥皮後タグ等を添付



舌・頬肉は食用可



扁桃は  
不可食部位なので  
除去

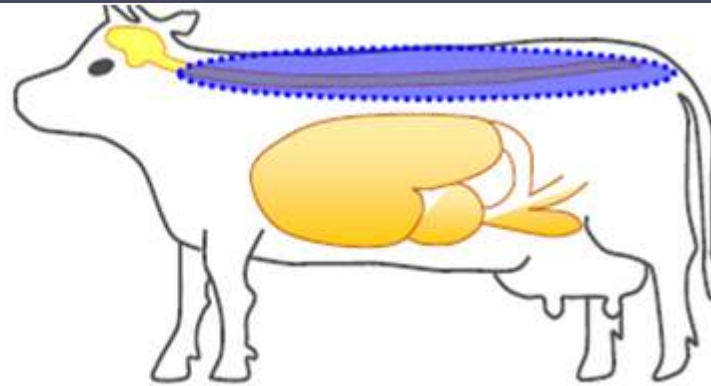




# と畜場（食肉衛生検査所）でのBSE対策

## 2-2 特定危険部位（SRM）の除去

脊髄



機械による  
せき髄吸引



背割り

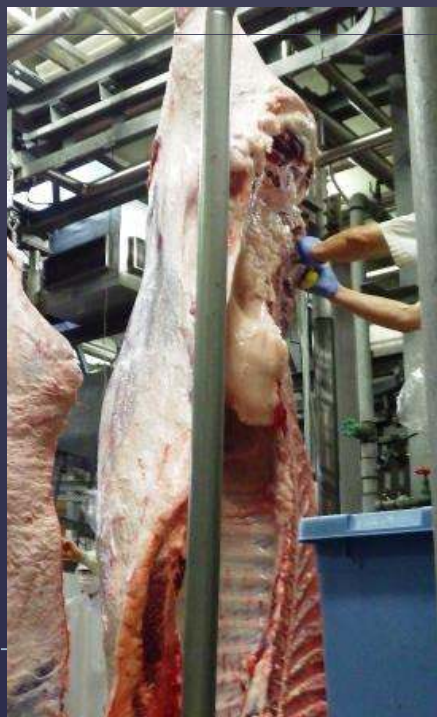
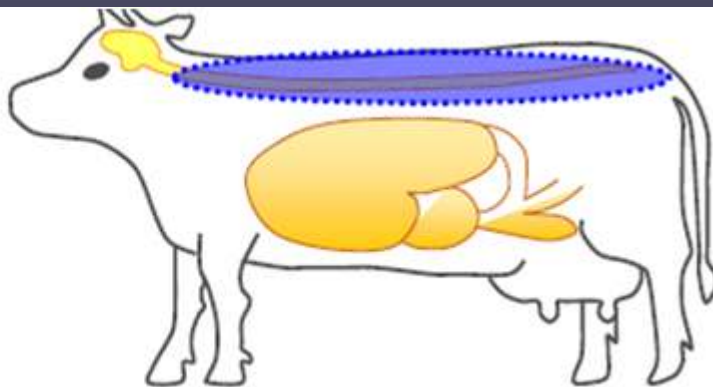


のこぎりは1頭  
ごとに熱湯で  
洗浄

# と畜場（食肉衛生検査所）でのBSE対策

## 2-2 特定危険部位（SRM）の除去

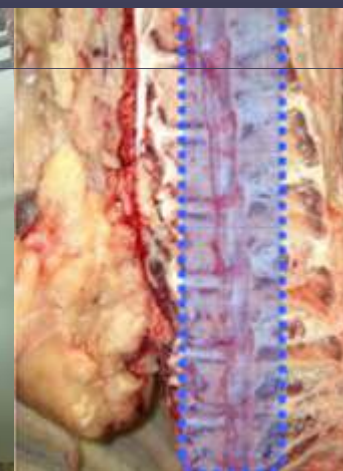
脊髓



手で硬膜  
除去



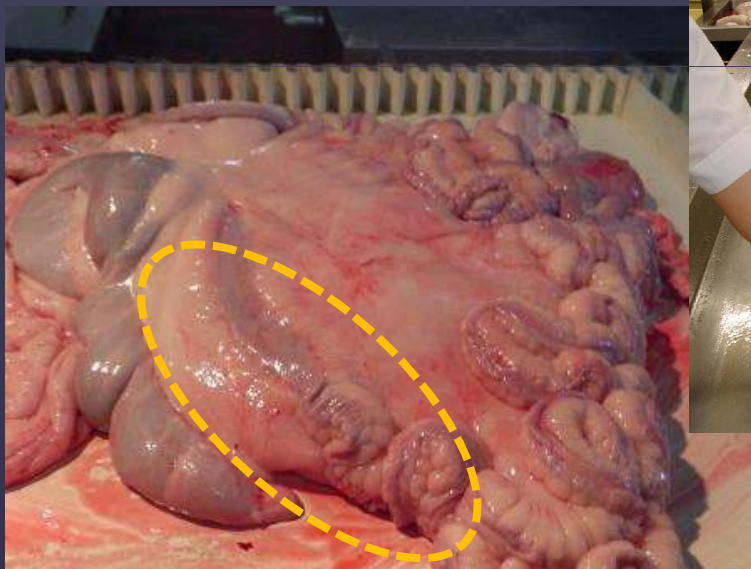
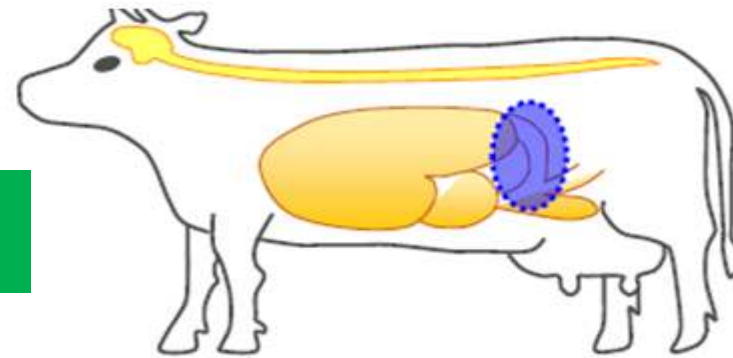
枝肉にせき髄が付着していないことを  
と畜検査員が確認





# と畜場（食肉衛生検査所）でのBSE対策 2-3 特定危険部位（SRM）の除去

回腸遠位端



回腸遠位端（盲腸の接続部から2m程度）  
を手作業で除去



と畜検査員が除去が確実に  
行われているかを確認

# まとめ

## BSE検査

検査対象牛に実施



## SMRの除去

分別管理を確実に実施し  
SMRの範囲変更に対応



今後も今までと同様に安全を確保します。